

公的医療機関等2025プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

名古屋大学医学部附属病院			
【地域において今後担うべき役割】（P8）			
<ul style="list-style-type: none"> 地域の行政や医師会との連携を図り、少子高齢化や疾病構造の変化に対する長期的視野に立った新しい地域医療提供体制の構築に貢献する。 今後地域で増床が必要とされる回復期病床で活躍する医療人材の育成に向けて、老年内科、整形外科等を中心にリハビリテーション・回復期部門の運用体制の整備を積極的かつ継続的に行う。 			
【今後持つべき病床機能】（P8）			
<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期・急性期機能を集約化し、回復期機能を連携病院等が担う体制の整備について検討する。なお、当院は最先端医療機能強化拠点として中央診療棟Bを新営しているため高度急性期・急性期医療に特化した診療体制のハード面における準備は既に整っている。 将来にわたって安定的に病床機能の提供を行うために、築後20年程度経過している既存病棟の改修について検討する。 			
【今後の方針】（P9）			
	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	985	→	881
急性期	0		104
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	985		985
【その他の数値目標】（P10）			
医療提供に関する項目（平成28年度→平成37年）			
<ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率：84.2%→90.00% 手術件数：8,664件→11,088件 平均在院日数：12.15日→11.12日 ICU稼働病床数：26床→54床（HCU10床含む） 紹介率：65.82%→70.00% 逆紹介率：53.62%→60.00% 			
経営に関する指標			
<ul style="list-style-type: none"> 附属病院収益：367.0億円→414.8億円 			